

テクニクスハイレゾ対応製品試聴会(2014.10.29)

1. はじめに

テクニクスハイレゾ対応製品試聴会に予約申し込みをして行ってきました。テクニクスの復活については10月5日の研究室日誌でのべたような情報があり、マスコミでも広く報道されています。

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/?p=3373>

2. 試聴会の進行

試聴会は大坂グランフロント南館にあるパナソニックセンターのテクニクスサロンで実施され、試聴に関しては予約制ということで申し込みをしました。月のうち、ほとんど満席であるとか、試聴参加にあたって同意をとられるとか、音源の持ち込みは受けないとか、敷居が高いので躊躇しましたが、一応申し込みを済ませました。

<http://panasonic.co.jp/center/osaka/access/>

http://panasonic.co.jp/center/osaka/event/all/spn/2014/09/post_309.html

試聴は10時からということで余裕をもって出かけましたら、開場が10時とこのことで寒い通路で待たされました。試聴室に入ったらなんと自分1名だけ。1名の空席と言うことで申し込んだら、1組ということらしく、それならオーディオ仲間を誘ったのにと残念で、まるで1組限定の超高級料亭に招かれたような贅沢な試聴となりました。



システムは大型SPのReference Systemと小型SPのPremium Systemがありますが、Premium Systemは少し聴いただけでReference Systemに移りましたのでそちらの方で説明します。まず、NAS(写真右最下段)があって、そこからLANでNetwork Audio Control Player SU-R1(写真右最下段)と称する事実上Network Transport

として機能するプリアンプに信号が送られ、そこから **Technics Digital Link** と称する信号線で L/R 独立のデータとボリュームの位置情報が **SE-R1** (写真左中央) と称するアンプに送られます。**SU-R1** の **NAS** からの読み出し操作は専用アプリの入った **PAD** で行います。**SE-R1** は通常のパワーアンプと違い、**DA** コンバーターとボリューム操作と **SP** 駆動を行う機能を持っています。なお、写真右の残り二つは **Premium System** 用のネットワークプレイヤーとプリメインアンプです。写真左の外側のスピーカーは **SB-R1** です。

上記の **SE-R1** は **LAPC** (**Load Adaptive Phase Calibration**) と称する、スピーカー負荷適用アルゴリズムでスピーカーの振幅/位相特性に対応してアンプのインパルス応答のデジタル信号化を行うという機能があります。

DSD については **SU-R1** から **SE-R1** への 1 ビットからマルチビットに変換されて伝送され 1 ビットに戻して **DA** 変換するとのことで、俗にいう **USB-DAC** で言えば **Native** 再生とは違い **DoP** 再生のようで、これによりジッター低減の効果があるとのことでした。システム自体がネットワークコントローラーとパワーアンプ、パワーアンプとスピーカーが括り付けになっており、**LINN** の **EXACT** のように、組み合わせの自由度が制限されますので、バラコンでシステムを構築していると単体機の購入には手が出しにくいところがあります。

肝心のデモですが、著作権その他諸般の事情とかでデモ音源が限られており、**DSD** はおろか **192KHz24bit WAV** もなく、**96KHz24bitFLAC** しか聴かせてもらえませんでした。担当者は音源の情報にはそれほど詳しくなさそうで詳細説明がなかったので、帰宅後ネット検索したら小澤指揮サイトウキネンのブラームスの 2 番とユンディ・リ(p)、ハーディング指揮 **BPO** の皇帝のようです。**FLAC** の問題なのか、システムの問題なのか、二つのオケの音が区別のつかないような鳴り方をしたのは不思議でした。また、音の綺麗さ、分解能の良さは分かりましたが、反面、音の躍動感が抑制され、スピーカーのコントロールが効き過ぎているようでした。開発時点ではもっと多くの音源を聴いているとのことでしたが、デモ担当者はヨーロッパのハイレゾ音源配信元などには詳しくなく、開発からマーケティングまで、良い音源を数多く聴いていないのではないかと心配になりました。

上記の **DSD** のマルチビット変換の伝送については、**DSD** 音源が聴けませんでしたので、音質的な評価はできませんでした。また、音の綺麗さ、分解能の良さの反面、抑制的な音になるのは **LAPC** の効果なのかどうかも分かりませんでした。スピーカーの素性は良さそうなので、できるかどうか分かりませんが、一度 **LAPC** をはずして無帰還の真空管アンプなど別のアンプで聴いてみたい思いはあります。なお、ネットオーディオ **No.16** に本システムの記事が出ていますが、解説はともかく、音質評価については額面どおり受け取れないところがあります。

というわけで、ネットワークでの **DSD** の試聴を期待していったのですが、実現しま

せんでした。なお、試聴室は非常に癖のない、音の良く分かるもので、オーディオ機器の試聴に行ったのに試聴室の試聴にいったようなことになってしまいました。つまり超高級料亭の座敷と庭に感激しながら、井物を食べて帰ったような次第となりました。上記のように本システムの本来のポテンシャルを十分確認できなかったようなので、別の機会に豊富な音源できちんとしたデモを行っていただけることを期待しています。

以上